

業が進められているが、それを契機として、季節調整に関する情報交換が進み、景気観測の精度が一段と向上することを期待したい。

参 考 文 献

- 1) 経済企画庁経済研究所「季節変動調整法」研究シリーズ22号，昭和46年。
- 2) 日本銀行統計局「センサス局法Ⅱ X-11季節調整プログラムの検討と利用」統計研究資料第13号，昭和42年10月。
- 3) 通産省調査統計部「鉱工業生産指数等の季節調整方法について」通産統計，昭和43年5月。
- 4) J. Shiskin, "The X-11 Variant of Census

Method II, Seasonal Adjustment Program," U. S. Department of Commerce, Bureau of the Census, Nov. 1965.

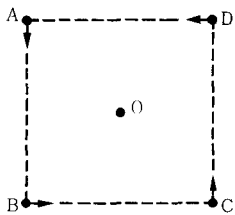
- 5) OECD, "Electronic Computer and Seasonal Adjustments, OECD," 1960.
- 6) 溝口敏行，浜田宗雄「経済時系列の分析」勁草書房，昭和44年。
- 7) 溝口敏行「季節調整法の比較——センサス，EPA，MITI法をめぐって——」『季刊理論経済学』第24巻，昭和48年。
- 8) 溝口，佐伯「国民所得統計と季節調整」『季刊国民経済計算』No. 39，52年4月。

(おしさか・あきら 経済企画庁調査局統計課長)

フォーラム

数理パズルを楽しもう(2)

問題 A, B, C, Dの4匹の犬が、一辺の長さ100mの正方形の4頂点に立っています。いま、AがBに向かって、BがCに向かって、CがDに向かって、DがAに向かって、それぞれ同じスピードで、同時に走りはじめたとします。すると、どの犬も螺旋線状に走って、中心のOですべてが同時に追いつきます。それぞれの犬は、追いつくまでに何m走ったでしょうか。



〔11月号(656ページ)の解答〕 点Pと直径上に向かい合う点Qは、つぎの方法で求められる。まず、円のよび方を簡明にするため、点Aを中心とする円を「円A」とよぶ。ただし、お盆による作図のため、中心Aの位置は不明である。点Pを通る勝手な円Bを描き、円Aとの他の交点をRとする。つぎに、点Rを通る勝手な円Cを描き、円Bとの交点をSとする。さらに、点Sを通り、円Aと円Cに交わる勝手な円Dを描き、円Aとの交点をT、円Cとの交点をUとする。2点T, Uを通る円Eを

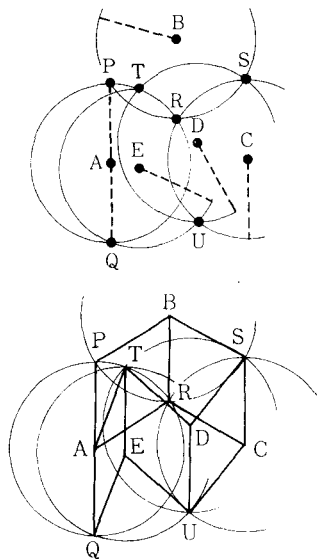
描けば、円Aとの交点が求める点Qである。この理由は、四角形APBR, BRCS, CSDU, DTEU, ETAQがすべて平行四辺形であることから、明らかであろう。

このエレガントな問題と解答はL. A. Grahamの著書〔1〕に紹介されており、お盆によるその他の作図を調べたもの〔2〕もある。

〔1〕 Graham, L. A., *The Surprise Attack in Mathematical Problems*, Dover Pub., New York, 1968.

〔2〕 数理楽-N, “丸いお盆で図形を描く”, 科学朝日, 1月号(1974), 74—77.

(中村義作 信州大学工学部)



FORUM